田の浜自治会で世代間交流
昔の風習に触れ親睦深める

１月10日、田の浜自治会（佐々木善朗会長・463世帯）主催の世代間交流会が船越漁村センターで開かれました。郷土の風習や昔遊びを伝えながら世代を超えた地域のきずなを深めようと行われたもので、地区の住民135人が参加。子供たちはおじいちゃんやおばあちゃんから手ほどきを受けながら、団子を作ったりミズキの枝に飾りつけを行ったりしたほか、お手玉遊びなどの昔ながらの風習に触れながら親睦を深めました。また、会場では船越小児童による歌と踊りの披露や、小方美樹志船越駐在所長の交通安全などについての講話も行われました。参加した皆さんは、咲き乱れるミズキの花の下、共に楽しいひとときを過ごしていました。

山田ミニバスが県で初優勝
決意を胸に全国大会へ挑む

山田ミニバスケットボールスポーツ少年団（川村芳宏監督）は、１月９日から11日まで行われた第33回県ミニバスケットボール交歓大会で初優勝しました。１月15日、川村監督と山崎格之主将ら選手15人が沼崎喜一町長を訪問し、大会の結果を報告。山崎主将が「練習の成果が実ってうれしい。全国大会は優勝目指して頑張りたい」と決意を述べると、沼崎町長は「町や県の代表として素晴らしい結果を出せるように頑張ってください」と激励しました。なお、全国大会は３月28日から３日間、東京の代々木体育館で開催されます。

空手道豊志会で初げいこ
新年の目標実現に向け始動

１月11日、山田空手道豊志会（後藤尚会長）では、豊間根生活改善センターで初げいこを行いました。これは、新年の新たな目標の実現に向けて動き出すきっかけとなるようにと毎年実施しているもので、加入予定の子供ら４人を含む会員19人が参加。鈴木覚代表が「新しい年を心新たに迎えたと思う。ことしも新たな目標を立ててけいこに勉強に励んでほしい」とあいさつした後、空手の基本となる型を練習しました。子供たちは、切れのある突きや蹴りを繰り出しながら元気な掛け声を発し、練習に打ち込んでいました。けいこ後には新年会が開かれ、玄関前に用意されたきねと臼を使って会員の皆さんでもちつきを行い、できたての柔らかいおもちをおいしくいただきました。

元気な声を発しながら型の練習に打ち込む子供たち（上写真）／けいこ後は会員の皆さんでおもちをつきました

町のわだい

今月の題字
中村広夢（ひろむ）くん
（轟木小２年）

新春書き初め大会に38人
上達を願い力強く筆を運ぶ

１月７日、町教育委員会と町芸術文化協会（佐藤仁志（ひとし）会長）が主催する新春書き初め大会が行われました。会場の町中央公民館には町内の小学生38人が参加し、書道の上達を願い力強く筆を運びました。参加した児童たちは「はつ日」や「豊かな海」など各学年ごとに決められた課題に手本を見ながら挑戦。山田書道会（後藤清郎（せいろう）会長・会員20人）会員の指導を受けながら、満足いく作品に仕上がるまで何度も筆を走らせていました。この日書いた作品は12日から15日までの４日間、同公民館で展示されました。

防犯隊と交通指導隊が初点検
町の安全、安心を誓い合う

１月９日、町防犯隊（篠澤政夫（まさお）隊長・隊員28人）と町交通指導隊（野崎文子（ふみこ）隊長・隊員13人）の合同初点検が町中央公民館で行われました。沼崎喜一町長のほか昆暉雄町議会議長、西野悟宮古警察署長（さとる）らが両隊員の服装を点検し、沼崎町長が「日ごろの活動に感謝します。町民の生命財産を守り、安全な町づくりに励んでほしい」と訓示。篠澤隊長と野崎隊長は「犯罪や交通事故のない町を目指し努めたい」と誓い合いました。また、山田高２年の関根有姫（ゆうき）さんが隊員らに感謝の言葉を述べ、両隊長へ花束を贈りました。

視力の弱い方はご利用を
窓口用に拡大読書器を購入

町ではこのたび、拡大読書器を１台購入しました。これは、視力が弱い方でも窓口での書類記入などができるようにと、県の補助を受けて配備したものです。カメラ一体型のモニターとスタンドがセットになっており、スタンドの下に書類を置くと最大で26倍まで文字を拡大して見ることができるほか、モニターを見ながら書類に文字を書くこともできます。拡大読書器は役場の窓口でどなたでも利用することができますので、必要な方はお気軽にお申し付けください。